

Title	現代思想における罪と責任の区別の背後にある宗教・倫理・社会の領域の交錯について
Sub Title	Study of the connection between responsibility and culpability in contemporary thoughts at the intersection of religion, ethics and society
Author	村上, 暁子(Murakami, Akiko)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2021
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2020. )
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究の目的は、「責任」と「罪」の概念規定の背景にある宗教・倫理・社会の領域の交錯に光を当て、これら諸領域の再画定の試みの意義と可能性を明らかにすることである。</p> <p>20世紀には、罪の意識の希薄化や責任主体の不在といった問題意識を背景に「責任」と「罪」の問題が盛んに論じられた。申請者は、これに先立つ研究において、レヴィナス、リクール、アーレントの思想における両概念の連関や差異化の内実を解明する研究に取り組んだ。その際に、思想家のそれぞれが、従来の倫理学、神学、政治学、法学等の一般的な学問領域の区分けとは異なる仕方では複数の領域を結び付けており、ドイツの実存哲学や、ユダヤ思想、キリスト教思想などから影響を受けている事実が浮かび上がってきたことから、新たに設定された本研究課題においては、「宗教」と「倫理」、「社会」の領域を交錯させる現代思想のアプローチによって「責任」と「罪」がどのように関連付けられ、あるいは区別されるのか、について、これまでの研究を継続発展しつつ、より広い視野に立った考察を行っている。</p> <p>一年計画の初年度であり最終年度でもある本年は、(1)リクールとアーレントの議論に対するヤスパースの実存哲学の枠組みの影響を調査し、(2)ドイツユダヤ思想の文脈とレヴィナスの議論の親近性に関する国内外の最新研究を総合し、さらに(3)研究成果を公表して領域横断的なモデルケースが倫理・宗教・社会思想にとってもつ意義やその限界について隣接領域の研究者との意見交換を行う計画であった。しかし新型コロナウイルス感染症の蔓延による業務量の増加と緊急事態宣言下での研究環境の変化のため、課題の実施に大幅な遅延が生じ、国際的な規模での調査・研究交流を要する(2)および(3)については年度内の実施が叶わなかった。先の研究課題成果として公表が計画されていた論文一編についても、予定されていた時期の刊行を断念した。今後は未完了の課題を実施し、研究期間終了後にはなってしまうが、なるべく公益性のある仕方では成果を公表していきたい。</p> <p>This comparative study of Levinas, Ricoeur, and Arendt attempts to shed light on the connection between the notions of Responsibility and Culpability, considering the implications of the intersection of Ethics, Religious Study, and Social Philosophy in Contemporary Thoughts. During this academic year, we planned to focus on the following tasks: (1) clarify the influence of Jaspers's existential philosophy on Ricoeur and Arendt (2) get a comprehensive view of the latest international research developments concerning Levinas in the context of German Jewish thoughts (3) publish the result of this study and discuss with other researchers the implications of cross-disciplinary approaches to the problem of human responsibility and culpability. However, due to the situation caused by the pandemic of COVID-19, some of the tasks which include international exchanges could not be realized before the end of the period.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2020000008-20200150">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2020000008-20200150</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	文学部	職名	助教	補助額	200 (B) 千円
	氏名	村上 暁子	氏名 (英語)	Akiko MURAKAMI		
研究課題 (日本語)						
現代思想における罪と責任の区別の背後にある宗教・倫理・社会の領域の交錯について						
研究課題 (英訳)						
Study of the connection between Responsibility and Culpability in Contemporary Thoughts at the Intersection of Religion, Ethics and Society						
1. 研究成果実績の概要						
<p>本研究の目的は、「責任」と「罪」の概念規定の背景にある宗教・倫理・社会の領域の交錯に光を当て、これら諸領域の再画定の試みの意義と可能性を明らかにすることである。</p> <p>20世紀には、罪の意識の希薄化や責任主体の不在といった問題意識を背景に「責任」と「罪」の問題が盛んに論じられた。申請者は、これに先立つ研究において、レヴィナス、リクール、アーレントの思想における両概念の連関や差異化の内実を解明する研究に取り組んだ。その際に、思想家のそれぞれが、従来の倫理学、神学、政治学、法学等の一般的な学問領域の区分けとは異なる仕方でも複数の領域を結び付けており、ドイツの実存哲学や、ユダヤ思想、キリスト教思想などから影響を受けている事実が浮かび上がってきたことから、新たに設定された本研究課題においては、「宗教」と「倫理」、「社会」の領域を交錯させる現代思想のアプローチによって「責任」と「罪」がどのように関連付けられ、あるいは区別されるのか、について、これまでの研究を継続発展しつつ、より広い視野に立った考察を行っている。</p> <p>一年計画の初年度であり最終年度でもある本年は、(1)リクールとアーレントの議論に対するヤスパースの実存哲学の枠組みの影響を調査し、(2)ドイツユダヤ思想の文脈とレヴィナスの議論の親近性に関する国内外の最新研究を総合し、さらに(3)研究成果を公表して領域横断的なモデルケースが倫理・宗教・社会思想にとってもつ意義やその限界について隣接領域の研究者との意見交換を行う計画であった。しかし新型コロナウイルス感染症の蔓延による業務量の増加と緊急事態宣言下での研究環境の変化のため、課題の実施に大幅な遅延が生じ、国際的な規模での調査・研究交流を要する(2)および(3)については年度内の実施が叶わなかった。先の研究課題成果として公表が計画されていた論文一編についても、予定されていた時期の刊行を断念した。今後は未完了の課題を実施し、研究期間終了後にはなってしまうが、なるべく公益性のある仕方でも成果を公表していきたい。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>This comparative study of Levinas, Ricoeur, and Arendt attempts to shed light on the connection between the notions of Responsibility and Culpability, considering the implications of the intersection of Ethics, Religious Study, and Social Philosophy in Contemporary Thoughts. During this academic year, we planned to focus on the following tasks: (1) clarify the influence of Jaspers's existential philosophy on Ricoeur and Arendt (2) get a comprehensive view of the latest international research developments concerning Levinas in the context of German Jewish thoughts (3) publish the result of this study and discuss with other researchers the implications of cross-disciplinary approaches to the problem of human responsibility and culpability. However, due to the situation caused by the pandemic of COVID-19, some of the tasks which include international exchanges could not be realized before the end of the period.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			